



KOHASU-KUN こはすくん

高知大学 病院広報

高知県基幹型認知症疾患医療センターが設置されました

お仕事紹介 視能訓練士
●4コマ漫画「こはすくん」第23回

医事課の業務を直営化しました
院内散歩

形成外科が診療科になりました

形成外科 栗山 元根

平成19年4月に「外科」の中の一部門として診療を開始し、今年の4月で8年目に突入いたしました。昨年12月に、今までの業績が認められて部門から診療科へと昇格いたしました。そこで改めて「形成外科」についてご紹介いたします。

分かりづらい名前 「形成外科」

「形成外科」は、日本では1975年(昭和50年)に医療法上、診療科として認められましたが、未だ認知度が低いことは否めません。原因は、名前にあるのかも知れません。よく似た名前の診療科に「整形外科」があります。「けいせいげか」と「せいけいげか」…。非常に分かりづらいです。更には「美容整形」という法的には存在しない名前もマスコミを中心に飛び交っています。

「整形外科」は、骨や筋肉、腱や神経などの体を動かす機能の病気を診療します。骨折したり腰や関節が痛くなったりすると行く診療科です。「形成外科」は、頭のてっぺんからつま先まで、体表面の形や色などの変化を取り扱います。

形成外科の中の 2つの領域 「再建外科」と「美容外科」

形成外科は、「再建外科」と「美容外科」の大きく2つに分類されます。「再建外科」では、先天奇形や怪我、がん手術により体の一部が欠損・変形した事で、機能と外観が大きく損なわれた患者さんに対して、別の組織を移植して再建・修復します。「美容外科」は、病気ではなくてもご本人が気

にされている形や色、加齢性変化などを、より美しく改善させる医療です。

「再建外科」診療に力を入れています

当院では、形成外科専門医3名とほかに医師1名で診療しています。特に他の診療科と合同で手術・治療を行う頭頸部がんの再建、乳房再建、皮膚軟部組織悪性腫瘍の再建などの「再建外科」診療に力を入れています。また、糖尿病や動脈硬化による足壊疽や難治性潰瘍、顔面神経麻痺後の後遺症、眼瞼下垂症、ケロイドや瘢痕(キズアト)、顔面骨骨折や顔面外傷などの治療も多く手掛けています。現在のところ、美容外科診療は行っていません。詳しくは、附属病院ホームページ※1をご覧ください。

当院での 「形成外科」の特徴や 研究活動について

再建手術において、経皮的組織酸素飽和度測定(TOS-OR®)や近赤外線ICG蛍光造影(HEMS®)を使用して組織移植の安全性を高めるとともに、それに伴う基礎的な研究を行っています。また、以前より自家組織(自分の体の一部)を

使用した乳房再建を行っていますが、去年は、保険適応となった人工乳房(シリコンインプラント)による乳房再建を四国では最も早く開始しました。

これからの「形成外科」の展望

診療科となったことで、私達の特徴や独自性が発揮しやすい環境が整いました。一方、地域の方々の期待や信頼に対する責務も、より大きくなったと感じています。高度で安全性の高い形成外科医療を提供するとともに、将来的には県東部や西部地域にも形成外科医療を提供できるように診療を拡大していきたいと考えています。そのためにも、診療活動はもちろんのこと、未来を見据えて医学生や研修医の育成にも力を注いでいきたいと思っています。



顕微鏡下手術による頭頸部がん再建の様子
組織移植のために、直径1~2mmの血管や神経を顕微鏡を使用して吻合しています。女性医師も活躍しています。

形成外科で 取り扱う 主な疾患

- 熱傷(やけど) ●顔面骨骨折、顔面外傷(けが) ●口唇裂、口蓋裂 ●手、足の先天性形態異常 ●頭蓋顎顔面形態異常
- 漏斗胸、鳩胸 ●皮膚腫瘍(いぼ、ホクロ、粉瘤、脂肪腫など) ●悪性腫瘍切除後の再建(頭頸部がん、乳がん、皮膚軟部悪性腫瘍)
- 褥瘡(床ずれ)、糖尿病や動脈硬化による難治性潰瘍 ●瘢痕(キズアト)、ケロイド ●眼瞼下垂症
- 顔面神経麻痺後の後遺症 ●腋臭症(わきが) ●美容外科(他院紹介、当院ではセカンドオピニオンのみ)

高知県基幹型認知症疾患医療センターが設置されました

1 高知県基幹型認知症疾患医療センターを開設

認知症の診断・治療・介護ケアが身近な場所で受けられ、例えば認知症となっても住み慣れた地域で生活ができることを目的として、各都道府県が認知症疾患医療センターの設置を進めてきました。

高知県では、これまでに高知鏡川病院(中央医療圏)、県立あき総合病院(東部地区)、一陽病院(高幡地区)、渡川病院(幡多地区)の4つの地域型センターが設けられ、高知県内全ての地域を圏域に含めて、既に認知症医療と地域ケアへの取り組みを開始しています。

本院は高知県から委託を受けて、平成26年2月1日に基幹型認知症疾患医療センターを設置しました。

2 基幹型認知症疾患医療センターの役割は

当センターの主な役割は、認知症医療・介護に関わる人達の人材育成と、人材の地域偏在の解消です。さらに、当センターの使命は、4つの地域型センターと力を合わせて高知県の認知症対策をコツコツと確実に支援していくことと考えています。

3 どんなことができるの

高知県では、認知症患者さんの相談に二段階方式で

対応します。まずは近くの地域型センターに相談して各種検査や鑑別診断などを行います。そのうえで、更に大きな病院でしかできない検査が必要な場合や認知症の診断が困難な若年の認知症などの患者さんについては、地域型センターから当センターへ紹介されて受診する仕組みとなっています。

なお、本院にかかりつけの患者さんや、地域のかかりつけ医からの紹介患者さんは、これまでどおり本院精神科外来にて、毎週月曜日の午後に開設している“物忘れ外来”を受診してください。



▲センタースタッフ

基幹型認知症疾患医療センター (高知大学医学部附属病院)

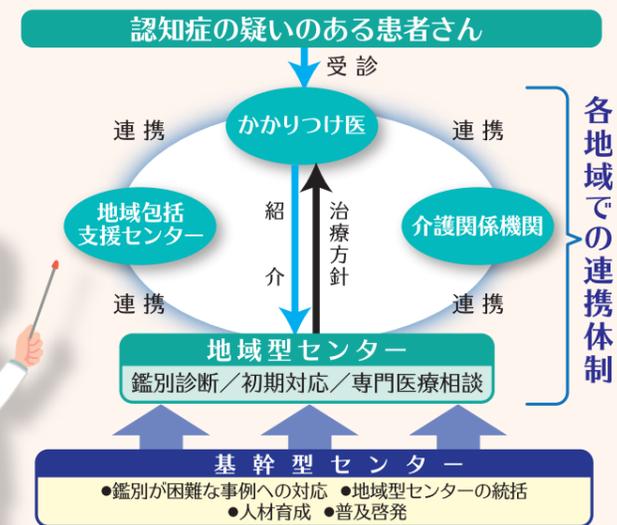
- より専門的な検査や判断を必要とする事例の鑑別診断
- 地域型センターの統括(事例検討会の開催等)
- 人材育成(かかりつけ医、看護師、精神保健福祉士等)
- 普及啓発(一般住民等) ●専門医療相談



※当院の基幹型認知症疾患医療センターは、認知症コールセンター※1及び地域型認知症疾患医療センターからの紹介のみ受けつけます。一般の医療機関や個人からの直接依頼は受けつけいたしませんので、まずは最寄りの地域型認知症疾患医療センターにご相談ください。

※1) 認知症コールセンターとは、認知症の人の介護や家族の精神的な悩みなど、認知症に関するさまざまな相談に、介護の経験者がお答えする専門相談窓口です。

【地域型認知症疾患医療センター】
高知鏡川病院(中央医療圏)、県立あき総合病院(東部地区)、一陽病院(高幡地区)、渡川病院(幡多地区)



各地域での連携体制



お仕事紹介

視能訓練士



皆さんは『視能訓練士』という職業をご存じですか? 私達は視力検査を始めとする眼科の一般検査や斜視・弱視の訓練を行う専門職です。現在全国に1万1千人ほどで、高知県には30名、その内5名が本院で働いています。

とも「視能訓練士」は、イギリスで誕生しました。英語では「orthoptist」といい、その意味は

『まっすぐにする人』で、医師の指示のもと、子供の斜視や弱視の眼位(目の位置)を矯正する、という眼科のリハビリ職でした。しかし、最近の医療技術の発展・高度化に伴い、これまでの訓練・検査に加え、超音波・造影撮影・電気生理等、業務における項目の幅は広がり、ますます多様化してきています。それに伴い私達も、新しい病気の種類や検査について、

常に学んでいく必要があると思っています。

眼から入った情報は、きちんと網膜に像を結ぶことで正しく脳で処理され、全身に伝えられます。視力は物を見ることで発達していきます。したがって、子供の頃に強い遠視や近視、乱視があると、きちんと見分ける能力がつかえません。そのまま大人になると、眼鏡をかけても視力がでない、という事もあります。3歳、遅くとも小学校に入る年齢までには斜視や弱視を発見し、治療に繋がっていかなくてはなりません。その場合、

その子に合った眼鏡をかけた上で、見える方の目を絆創膏の様なもので隠し、見えにくい目を使わせて細かいものを見る訓練をします。

最近では高齢者の増加で、加齢に伴う病気も増えています。成人に多い緑内障を始め、糖尿病や高血圧、脳梗塞などで、視力が落ちたり、見える範囲が狭くなったりします。他にも物が二重に見えるなど、色々な障害が出ることもあります。眼鏡をかけても必要な視力が得られない場合は、見る物自体を大きくして見る拡大鏡や拡大読書器を使いま

す。まぶしくて見にくい方には、遮光眼鏡が必要になることもあります。その場合は、患者さんの話を聞き、その方の生活スタイルに合わせた道具を紹介したり処方したりすることで、日常生活が過ごしやすくなるようなサポートをします。

眼は24mmという10円玉程度の大きさしかありませんが、外からの情報の8割以上を受け取る、繊細かつ精密にできた器官です。目が見えなくなれば1級の身体障害とみなされます。それほど眼から入ってくる情報はとても大きなもので

す。私達はこれからも、皆様の豊かな生活に欠かせない『視覚の保持』のお手伝いに務めていきたいと思っています。

(文責：進藤)



医事課の業務を直営化しました



医事課とは

医療に関する事務を扱う部署で、病院に来られた方に最初に対応するのが医事課の職員です。主な業務内容は受付や電話対応、診療(入院・外来)後の料金計算と請求、診療報酬明細書(レセプト)を社会保険や国民健康保険等に請求を行うことなどです。

これまで

病院業務の外部委託は、過去に病院の人件費を削減するための手段として多くの病院で進められました。当院でも医事業務のほとんどが外部委託されてきました。その後医療環境が変化し、特に入院医療費の1日当たり定額支払い方式(DPC/PDPS)が導入された現在では、医事業務の専門性が著しく進み、優秀な診療情報管理士の配置の有無が病院経営を左右すると言われてきています。

外部委託が進むと、病院全体としての一体感や、自分の病院であるという帰属意識が欠けてしまうこともあります。医事課は毎日が目の廻るような忙しさのため、優秀な人員を投入することが求められ、職員には高いモチベーションと病院収入の面からも病院経営に大きく貢献しているというプライドが持てる処遇が必要となります。こうしたことから、医事業務等を直営化する医療機関が増加する傾向にあります。

これから

目まぐるしく変わる医療制度に迅速かつ適切に対応できる事務職員の確保・維持・育成体制を構築して、健全かつ安定した病院運営に貢献できるよう、本院も平成26年4月から医事業務を直営化しました。これにより医療事務に精通した正職員を増やし、若手職員を育成していきます。そのために、職員には医療、病院に関する研修に積極的に参加させると共に、病院に関する予算、契約、人事等の病院マネジメントに関与するポストを経験させてキャリア形成を目指すこととしています。



職員の確保・維持・育成(目まぐるしく変わる医療制度に対応)

★医療事務に精通 ★専門知識を保有

これまでの問題点

- 医事業務に精通した正職員の減少
- 若手職員育成が困難
- 業務管理や達成度の確認、職員指導等に支障
- 委託職員へ病院の方針や改善策等が、周知徹底できない



3/3 人形を飾りました

3月3日のひな祭りにあわせて、総合診療部横に人形を飾りました。

鮮やかな色の着物や、春らしい花々に彩られて、病院の一角が華やかな雰囲気となりました。足を止めて見ていかれる患者さんたちから、「春らしくてよかった」「もう少しじっくり見たかった」などと惜しまれましたが、3月6日に片づけました。



62 高知大学 病院広報
号 平成26(2014)年4月20日 発行

ご意見・ご感想は
こちらまで
どしどし
お寄せください。



[郵送先]

〒783-8505 南国市岡豊町小蓮
高知大学医学部・病院事務部
総務企画課調査・広報係
TEL.088-880-2723(直通)

■ ホームページ

<http://www.kochi-ms.ac.jp>

■ メールアドレス

kms-info@kochi-u.ac.jp

高知大学医学部附属病院
KOCHI MEDICAL SCHOOL HOSPITAL
〒783-8505

高知県南国市岡豊町小蓮

TEL.088-866-5811(代表)

TEL.088-866-5815(時間外)